

巻 頭 言

足利工業大学看護学部のスタートに当たって

足利工業大学学長 牛 山 泉

わが国の人口動態は急速に高齢化に進みつつあり、従来に増して医療・看護の重要性が認識されるようになった。このような状況下で、平成26年4月より、3年制の足利短期大学看護学科が、4年制の看護学部として足利工業大学併設されることが決まり、再スタートを切ることとなった。

これに先立って、足利工業大学看護実践教育研究センターにおいても、看護学部設置準備室の教員の方々の研究活動を収録した看護学研究紀要の創刊号が発行されたが、これに続き、ここに第2号を発行することとなった。

さて、足利工業大学看護学部の存在意義は何であろうか、それは地方都市足利にあってこの地域の医療・看護に携わる有能な人材を輩出することであろう。また、その特徴は工業大学に併設されるということから、工学分野での従来の実績との協調・連携であろうと思われる。すなわち、「地域医療」と「医工連携」が新しくスタートする看護学部の存在意義と特徴に係る重要な二つのキーワードとなるはずである。さらに看護学部の活動が軌道に乗り始めたら、工学部の先生方との共同研究も考えられよう。

特に、文部科学省でも、平成25年度から政府予算案のうち、国公立大学を通じた大学教育改革の支援として、地域再生・活性化の核となる大学の形成を目的として「地（知）の拠点整備事業（COC）」を実践しつつある。この事業は、自治体等を中心に地域社会と連携し、全学的に地域の課題を解決するための教育・研究・社会貢献を進める優れた取り組みを支援するものであり、新たにスタートする本学看護学部にとって、まさに天の時の到来である。

これまで工学部においては、いくつかの特徴的な研究が行われてきた。例えば私の関わる自然エネルギー・環境分野では、国内外で高く評価される研究を行い、これを足利工業大学研究集録や内外の権威ある論文誌を通じて発表してきた。このような情報発信を通じて、他大学や産業界、あるいは政府機関からの共同研究・開発や特徴あるプロジェクトの受託なども数多く行われてきた。このように新たにスタートする看護学部においても、地域住民の医療看護にかかわる特徴ある研究がなされ、本学看護学部でなければ成しえない特徴ある成果が、この紀要を通じて発信され、看護に関わる研究教育が活性化されることを願っている。